人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences, GEAHSS）・日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会・お茶の水女子大学・東京大学の共同で、「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」を実施する運びとなりました。2018年6月頃から実施し、その分析結果を第2回目のGEAHSSと日本学術会議との年次共同シンポジウム（2019年2月予定）で報告して、政府への提言等に生かせればと考えております。

日本は理系、人文社会科学系ともに、女性の研究者割合がOECDの中でも際立って低いことはご存知の通りです。人文社会科学系においても、研究者の実態を踏まえ、ニーズを明らかにして、政策にアピールしていければと思っております。

ご存知のように、理系では、男女共同参画学協会連絡会を2002年に立ち上げて以来、４～５年ごとにこうした大型調査をされてきました。http://www.djrenrakukai.org/　にその成果をみることができます。その成果は、科学技術・学術政策にも影響を与えてきました。それもあって、本調査項目は、理系が行ってきたものをベースにしながら、理系との比較を可能にするような人文社会科学系向けの項目を付加いたしました。

調査の内容は、教育経験、仕事内容・仕事の履歴、仕事環境・研究環境、家庭との両立、今後のキャリア展望、研究職の男女共同参画に関する意見などに関する事柄です。

本調査は、WEB上でお答えいただけるように設定し、GEAHSS加盟学会および人文社会科学系の学会にご依頼して、会員の方々にご回答を呼びかけていただいております。ご回答は任意かつ無記名です。ご回答結果の集計・分析はすべて計量的に行い、結果の公表に当たってご回答者個人が特定されることはありません。

なお、本調査の企画・実施は下記6名の調査実施企画委員が担当しております。各委員は日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会もしくはGEAHSS加盟学協会に所属しております。今後も調査結果の分析・公表等については、日本学術会議とGEAHSSの２つの組織が協力して実施していければと考えております。

本調査の趣旨にご理解を賜り、何卒ご回答にご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

調査実施企画委員
永瀬 伸子（お茶の水女子大学教授、日本経済学会、日本人口学会）
上田 貴子（早稲田大学教授、日本経済学会）
仲 真紀子（立命館大学教授、法と心理学会、日本心理学会、日本発達心理学会）
本田 由紀（東京大学教授、日本教育学会、日本教育社会学会、日本社会学会）
中西 祐子（武蔵大学教授、日本社会学会、日本教育社会学会）
大多和 直樹（帝京大学教授、日本教育社会学会）
調査実施主体
日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会（委員長：永瀬伸子）
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（運営委員長：井野瀬久美惠
（甲南大学文学部教授、日本学術会議連携会員、第一部総合ジェンダー分科会委員）
お茶の水女子大学
東京大学
連絡先：geahss.office@gmail.com

【回答時の注意点】

・実数を記入する質問は、回答欄内に半角数字でお答えください。仕様上、回答欄が横長になっています。
・回答内容によって、質問項目が増減します。
・画面上部と下部にある「>」を推すと次のページへ、「<」を押すと前のページへ移動します。
・「>>」を推すと最後のページへ、「<<」を押すと最初のページへ移動します。
・最後のページでは画面下部の「送信」ボタンを押してください。うまく送信できない時は、赤い文字で表示された質問を見つけてご回答下さい。
・回答には20分程度かかります。書きかけのまま12時間経過すると、送信ができなくなることがあります。その場合はページを再読み込みして、最初から改めてご回答ください。

« < 1 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

1. 2018年4月1日時点の年齢（歳）を選択してください。(必須) *

16歳未満 ▼

（16歳未満または90歳以上の場合）年齢を記入して下さい。（半角数字で記入）

2. 性別をお答えください。(自認)*

○ 男
○ 女
○ わからない・その他

2-1. また、次のうち、よりあてはまるものをお答え下さい。*

○ 日本人
○ 特別永住者
○ 外国人
○ わからない・その他

3. 現在の専門分野について、次の中からもっとも近いものを1つお選びください。(必須)*

○ 文学・文化系
○ 史学系
○ 哲学系
○ 言語学系
○ 心理学系
○ その他人文科学系
○ 法学系
○ 政治学系
○ 経済学系
○ 商学・経営学系
○ 社会学系
○ その他社会科学系
○ 教育学系
○ 生活科学系
○ 芸術系
○ その他

4. 所属する学協会をお答えください。(学協会名冒頭の「日本」は省略、アイウエオ順)(必須、この欄は2018年3月時点でGEAHSSに加盟している学協会の一覧です。他学会の場合は具体的にその他に記入ください)(複数回答可) *

- ▢ 無所属
- ▢ アメリカ文学会
- ▢ 医学哲学・倫理学会
- ▢ 英語学会
- ▢ 科学技術社会論学会
- ▢ 科学基礎論学会
- ▢ がん看護学会
- ▢ 教育学会
- ▢ 教育行政学会
- ▢ 教育社会学会
- ▢ 経済学会
- ▢ 経済理論学会
- ▢ 言語学会
- ▢ 国際ジェンダー学会
- ▢ 国際服飾学会
- ▢ ジェンダー史学会
- ▢ ジェンダー法学会
- ▢ 社会学会
- ▢ 社会教育学会
- ▢ 社会言語学会
- ▢ 社会心理学会
- ▢ 社会福祉学会
- ▢ 社会文学会
- ▢ 人口学会
- ▢ 心理学会
- ▢ 水産工学会
- ▢ スポーツ教育学会
- ▢ 村落研究学会
- ▢ 地域デザイン学会
- ▢ 地理情報システム学会
- ▢ 哲学会
- ▢ 東南アジア学会
- ▢ 日本語学会
- ▢ 認知・行動療法学会
- ▢ 認知心理学会
- ▢ 農村生活学会
- ▢ 犯罪社会学会
- ▢ フェミニスト経済学会
- ▢ 文化人類学会

- ☐ 法哲学会
- ☐ 法と心理学会
- ☐ 北東アジア学会
- ☐ マスコミュニケーション学会
- ☐ 流通学会
- ☐ 倫理学会
- ☐ その他

次のページにお進みください。

« < 2 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

あなたの教育について伺います

5. あなたは現在教育機関に在学中ですか。(必須)*

○ 在学中

○ 在学中でない

5.1 在学中の方は現在在学している教育機関を、在学中でない方は最終学歴をお答えください。(必須）＊

○ 大学院博士課程

○ 大学院修士課程

○ 大学

○ 短大

○ 高専

○ 専修学校

○ 高校

○ その他

（16歳未満または90歳以上の場合）年齢を記入して下さい。（半角数>字で記入）

[　　　　]

5.3 博士および修士学位の取得状況と取得年齢をお答えください。(複数回答可)(必須)

☐ なし

☐ 課程博士

☐ 論文博士

☐ PhD，MD

☐ 修士

☐ その他

最上位資格取得年齢（歳）

[16歳未満 ▼]

（16歳未満または90歳以上の場合）年齢を記入して下さい。（半角数>字で記入）

[　　　　]

5.4 あなたは仕事（現在ついている仕事以外を含む。運転免許は除く）に関連する資格を取得済みもしくは取得見込みですか。(必須)*

- ○ 取得済み
- ○ 取得見込み
- ○ なし

5.4.1 取得済みもしくは取得見込みの場合、最も重要な資格を１つお答えください。*

- ○ 臨床心理士
- ○ 産業カウンセラー
- ○ 専門社会調査士
- ○ 公認会計士
- ○ 税理士
- ○ 弁護士
- ○ 司法書士
- ○ 行政書士
- ○ 社会保険労務士
- ○ 教員免許
- ○ 幼稚園教諭・保育士免許
- ○ 図書館司書
- ○ 博物館学芸員
- ○ 社会福祉士
- ○ 精神保健福祉士
- ○ 販売士
- ○ 簿記
- ○ 証券外務員
- ○ ファイナンシャルプランナー
- ○ 宅地建物取引主任者
- ○ 中小企業診断士
- ○ 秘書検定
- ○ 管理栄養士
- ○ 理学療法士
- ○ 看護師
- ○ 医師
- ○ 介護福祉士
- ○ 建築士
- ○ 情報処理技術者
- ○ その他

5.5 博士学位取得済みの方に伺います。大学院修士課程に入学後、博士学位を取得するまでに合計何年かかりましたか（休学・留学等を含む）。*

- ○ 5年以下
- ○ 6年

- ○ 7年
- ○ 8年
- ○ 9年
- ○ 10年
- ○ 11年
- ○ 12年
- ○ 13年以上

6. 学費を賄うための奨学金について伺います。
6.1日本学生支援機構または日本育英会の奨学金を在学中に受けていましたか。(必須) *

- ○ はい
- ○ いいえ

6.2 日本学生支援機構または日本育英会以外の奨学金を在学中に受けていましたか。(必須) *

- ○ はい
- ○ いいえ

次のページにお進みください。

« < 3 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

あなたの現在の仕事について伺います

7. 現在の就業状況についてお答えください。(必須) *

◉ 働いている（TA、RA、アルバイト、非常勤、学術振興会特別研究員等を含む）
○ 働いていない

8. 現在の雇用形態が任期付きかどうかについてお答えください。(必須)*

○ 任期・契約期間付きの職(特任・非常勤・ポスドク・契約社員・派遣等を含む)
○ 任期・契約期間のない職(正社員・自営業を含む)

9. 現在の勤務先をお答えください(複数の勤務先がある方は主なものについてお答えください)。(必須) *

○ 国立大学
○ 公立大学
○ 私立大学
○ 高専・短大
○ 専門学校
○ 高校
○ その他の学校
○ 公的研究機関
○ 民間研究所等
○ 官公庁
○ 民間企業
○ NPO
○ 所属機関なし
○ その他

11. 現在の勤務先での勤続年数を教えてください（内部で異動した場合や契約が更新された場合は合計の年数を入れてください）。（年、四捨五入して整数を半角数字で記入）

[ ]

12. 現在の職種について、次の中からもっとも近いものを１つお選びください。(必須)*

○ 研究・教育職
○ 研究・教育を補助・支援する職
○ 研究・教育以外の専門・技術職

○ 経営・管理職

○ 事務職

○ 営業・販売職

○ その他

13. 現在のおおよその年収（税込み、万円）をお答えください。（半角数字で記入）

14. 現在、科学研究費の申請が可能ですか。(必須)*

○ 研究者番号を取得しており所属先に科学研究費の申請が可能

○ 研究者番号は取得しているが所属先に科学研究費を申請することができない

○ 研究者番号を取得できる条件を満たしているが所属先が取得させてくれない

○ 研究者番号を取得できる対象ではない

○ その他

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

« < 5 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

これまでの仕事等の経験について伺います

17. あなたは研究職もしくは高等教育機関の教育職（以下「研究教育職」と表記）としてフルタイムの有期雇用の仕事についたことはありますか。*

○ ある
○ ない

（16歳未満または90歳以上の場合）年齢を記入して下さい。（半角数>字で記入）

[ ]

18. あなたは研究教育職として無期雇用の仕事についたことはありますか。*

○ ある
○ ない

19.　あなたの研究教育職以外の就業経験や学生でない無職経験を伺います。

19.1　あなたは研究教育職以外の就業経験（大学院生時代のアルバイト等を含む）をお持ちですか。*

○ ある
○ ない

19.2　あなたは在学でない無職経験（家事育児失業など）をお持ちですか。*

○ ある
○ ない

20. これまでに経験された勤務先（大学院生時代のアルバイト等を含む）をお答えください。(複数回答可)

☐ 国立大学
☐ 公立大学
☐ 私立大学
☐ 高専・短大
☐ 専門学校
☐ 高校
☐ その他の学校
☐ 公的研究機関
☐ 民間研究所等
☐ 官公庁

- ☐ 民間企業
- ☐ NPO
- ☐ 所属機関なし
- ☐ その他

21. これまで、常勤職（有期雇用や常勤パートを含む、短期アルバイトや非常勤は含まない）について転職・異動・離職をしたことがありますか。(複数回答可)

- ☐ 職種を変える転職をしたことがある
- ☐ 職種は変えず転職・異動したことがある
- ☐ 同じ勤務先や所属機関で職種を変えたことがある
- ☐ 離職して無業になったことがある
- ☐ 転職・異動・離職の経験なし

22. 転職・異動・離職ありの方に伺います。（離職は無職期間があれば1回と数えてください）

22.1 その回数は何回ですか。（半角数字で記入）

22.2 その理由は（複数回答可）

- ☐ 勤務先からの指示
- ☐ キャリアアップ
- ☐ 職務内容(研究テーマを含む)の変更
- ☐ 収入増
- ☐ 自身の転勤
- ☐ 家族の転勤
- ☐ 配偶者との同居
- ☐ 勤務地の変更
- ☐ 前職の任期満了
- ☐ 結婚
- ☐ 育児
- ☐ 介護
- ☐ 将来への不安
- ☐ 男女差別
- ☐ 人間関係
- ☐ 所属機関への不満
- ☐ 解雇
- ☐ 倒産
- ☐ その他

23. 任期・契約期間のない職への就職に際し、あなたの専門分野またはご所属では以下のような問題があると思いますか。(複数回答可)

- ☐ 大学等でのポストが少ない

- ☐ 研究機関等でのポストが少ない
- ☐ 公募が少ない
- ☐ 公募が本当に公募か不明（既に採用者が決まっていることがある）
- ☐ 希望地域でポストが少ない
- ☐ 専門分野が合致するポストが少ない
- ☐ 研究環境が不明確・不安
- ☐ 業務負担が不明確・不安
- ☐ 業務負担が過重
- ☐ その他
- ☐ 特に問題はない

上記で選択した問題のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

1つめ：

大学等でのポストが少ない ▼

2つめ：

大学等でのポストが少ない ▼

3つめ：

大学等でのポストが少ない ▼

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

現在の仕事環境・研究環境やこれまでの海外研究経験についてうかがいます

24.仕事時間（大学等の場合は学期中）、研究費について伺います。

24.1 職場にいる時間は１週間（24時間×7日＝168時間）当たり平均何時間ですか。（半角数字で記入）

24.2 そのうち研究にあてている時間は１週間当たり平均何時間ですか。（半角数字で記入）

24.3 大学等で教育負担がある方に伺います。

24.3.1 １週間当たり平均授業時間数（ゼミ・指導を含む。非常勤を含む）は：（半角数字で記入）

時間

分

24.3.2 常勤の場合の1コマ（授業１回分）あたりの時間（分）：（半角数字で記入）

24.3.3 常勤の場合のコマ数（回）：（半角数字で記入）

前期：

後期：

24.3.4 非常勤（本務校外の場合を含む）の場合の1コマ（授業１回分）あたりの時間（分、平均）：（半角数字で記入）

24.3.5 非常勤（本務校外の場合を含む）の場合のコマ数（回）：（半角数字で記入）

前期：

後期：

24.3.6 非常勤（本務校外の場合を含む）に通っている機関数（大学数等）：（半角数字で記入）

24.4 現在、ご自身で使用できる研究費をお答え下さい。(複数回答可)

- ☐ 所属機関からの研究費
- ☐ 科学研究費
- ☐ その他公的競争資金
- ☐ 民間研究資金
- ☐ その他
- ☐ 研究費なし

25. 自宅での仕事時間について伺います(大学等の場合は授業期間中)。

25.1 自宅での仕事時間は１週間当たり何時間ですか。（半角数字で記入）

25.2 そのうち研究にあてている時間は（半角数字で記入）：

26. 海外(自国以外の国)での留学・研究・勤務について伺います。

26.1 海外での留学・研究・勤務は,キャリア形成にどのように影響すると思いますか。*

- ○ 非常にプラス
- ○ どちらかといえばプラス
- ○ プラスの面もマイナスの面も等しくある
- ○ マイナス
- ○ わからない

26.2 あなたは海外で半年以上の留学・研究・勤務の経験がありますか（複数回答可）。

- ▢ ある（その間、自国に在籍あり）
- ▢ ある（その間、自国に在籍なし）
- ▢ なし

27. 研究を進める上でどのような環境や機会が必要ですか。(複数回答可) *

- ▢ 常勤の職
- ▢ 研究時間
- ▢ 研究補助者
- ▢ 研究費
- ▢ 共同研究者
- ▢ 研究休暇
- ▢ 研究の自由度
- ▢ 事務・雑用の効率化や分業
- ▢ 成果の発表の機会
- ▢ 所属機関・上司・指導教員等の研究への理解
- ▢ 研究テーマに長く取り組める環境
- ▢ 研究グループ内での意思統一・コミュニケーション
- ▢ 業績や能力の適切な評価
- ▢ 指導教員・シニア教員・上司等からの指導
- ▢ 学生等を教育する機会
- ▢ 周囲の期待
- ▢ 子育て支援
- ▢ 家庭と研究の両立ができる環境
- ▢ 育児休業等が経済的に不利益にならないこと
- ▢ 仕事の性格上研究に携わっていない
- ▢ その他

上記で選択した環境や機会のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

1つめ：

常勤の職 ▼

2つめ：

常勤の職 ▼

3つめ：

常勤の職 ▼

«	<	7 / 12	>	»

«	<	7 / 12	>	»

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

あなたの仕事と家庭について伺います

28. あなたがふだん一番長く滞在するお住まいは何人で暮らしていますか。 *

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人
- ○ 6人以上

29. あなたの婚姻状態についてうかがいます。 *

- ○ 既婚（事実婚を含む）
- ○ 未婚
- ○ 離別
- ○ 死別

32. 配偶者の転勤・就職による離職を防ぐための制度について伺います。

32.1 勤務先に同居支援制度（または帯同雇用制度）はありますか。ある場合、近いものを選んでください。(複数回答可)

- ☐ 別居せずに通える拠点への異動希望を申請できる
- ☐ 同居支援のために一定期間休業を認める
- ☐ 結婚後数年間転勤なしとする
- ☐ その他
- ☐ 制度は特にない
- ☐ わからない

32.2 勤務先、あるいは国、公的機関等に同居支援制度または帯同雇用制度があれば利用したいと思いますか。 *

- ○ 利用したい
- ○ 利用したくない
- ○ 利用する必要がない

33. お子さまについてお答えください（全員）。 *

- ◉ 子どもあり

○ 子どもなし

34. お子さまありの方に伺います。

34.1 現在の子どもの数は：（半角数字で記入）

34.2 お子様の年齢をお答えください。（半角数字で記入）
第1子：

第2子：

第3子：

第4子：

第5子以上は「、」で区切ってまとめてご記入ください。

34.3　第１子を持たれたのは何歳の時ですか。（半角数字で記入）
あなた：

配偶者：

☐ 配偶者はいなかった

34.4 第１子について伺います。お子様が小学校就学までの平日昼間の育児(２次保育を含む)を主に担当したのはどなたですか。(複数回答可)

☐ あなた自身

☐ 配偶者

☐ 同居親族

☐ 非同居の親族

- ☐ 知人
- ☐ 保育園等
- ☐ ベビーシッター
- ☐ 家政婦
- ☐ ファミリーサポート
- ☐ その他

33.5 第１子が小学生の時、放課後のお子さんの世話(２次保育も含む)を主に担当したのはどなたですか。(複数回答可)

- ☐ 該当しない
- ☐ あなた自身
- ☐ 配偶者
- ☐ 同居親族
- ☐ 非同居の親族
- ☐ 知人
- ☐ 学童保育等
- ☐ シッター等
- ☐ 塾・習い事等
- ☐ 子どもだけで留守番
- ☐ その他

34.6 あなた自身の学会参加などの出張時の育児を主に担当したのはどなたですか。(複数回答可)

- ☐ 該当しない
- ☐ あなた自身
- ☐ 配偶者
- ☐ 同居親族
- ☐ 非同居の親族・知人
- ☐ 自分で依頼したベビーシッター
- ☐ 学会の保育サービス
- ☐ その他

35. あなた、または配偶者が第１子を出産した時の、それぞれの就業状況を教えてください。
◆あなた：*

- ○ 大学・研究機関等の研究教育職（無期）
- ○ 大学・研究機関等の研究教育職（有期）
- ○ その他民間・官公庁・小中高校等フルタイム勤務
- ○ 非常勤講師
- ○ 民間・官公庁等のパート・アルバイト等
- ○ 自由業・自営業等
- ○ その他
- ○ 専業主婦（主夫）・無職

◆あなたの配偶者：*

○ 大学・研究機関等の研究教育職（無期）
○ 大学・研究機関等の研究教育職（有期）
○ その他民間・官公庁等フルタイム勤務
○ 非常勤講師
○ パート・アルバイト等
○ 自由業・自営業等
○ その他
○ 専業主婦（主夫）・無職
○ 配偶者はいなかった

36. 第１子についてあなたの育児休業（休学を含む）取得状況についてお答えください。 *

○ 取得した
○ 制度はあったが取得しなかった
○ そもそも制度の対象ではなかった
○ もともと無職であった
○ 離職・退学した
○ その他

37. 一番末のお子さんについてあなたの育児休業（休学を含む）取得状況についてお答えください。*

○ 取得した
○ 制度はあったが取得しなかった
○ そもそも制度の対象ではなかった
○ もともと無職であった
○ 離職・退学した
○ その他

40. 第１子の出産および休業後の状況についてお答えください。*

○ 休業前と同じ職務を継続
○ 自分の希望で職務を変えた
○ 自分の希望で部署を変えた
○ 職場の指示により職務が変わった
○ 職場の指示により部署が変わった
○ 失職した
○ 退職した
○ その他

41.1 第１子について配偶者の育児休業取得の状況についてお答えください。*

○ 取得した
○ もともと無職であった
○ 離職・退学した

○ 取得しなかった
○ その他

41.2 末子について配偶者の育児休業取得の状況についてお答えください。*

○ 取得した
○ もともと無職であった
○ 離職・退学した
○ 取得しなかった
○ その他

42. 配偶者が育児休業（休学）した方に伺います。その期間は（産休を除く子ども1人当たりの平均で）どれくらいでしたか。週または月のいずれかでお答え下さい。（半角数字で記入）
週の場合：

月の場合：

« < 8 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

あなたの仕事とプライベートの理想や将来像、両立についてのお考えを伺います

44. あなたの生涯での理想の子どもの数について伺います。

44.1 その数は：（半角数字で記入）

44.2 あなたの子ども数（予定数を含む）が理想の数より少ない場合、その理由は(複数回答可)：

- ☐ 該当しない
- ☐ 年齢的理由
- ☐ 経済的理由
- ☐ 健康上の理由
- ☐ 職の安定性
- ☐ 育児とキャリア形成の両立
- ☐ 配偶者の育児への協力
- ☐ 職場の理解
- ☐ 子どもが育つ社会的環境
- ☐ 不妊
- ☐ その他

44.3 子どもを持つ時期について次のようなことはありましたか。（複数回答可）

- ☐ 研究の見通しがつくまで子どもをもてない
- ☐ 雇用が不安定な間は子どもを持てない
- ☐ 奨学金借入金の返済のあてがつくまでは子どもを持てない
- ☐ 特にそのようなことはなかった
- ☐ もともと子どもはほしくなかった
- ☐ その他

45. 配偶者、子ども以外のご家族について伺います（複数回答可）

- ☐ 実母と同居している
- ☐ 実父と同居している
- ☐ 義父と同居している
- ☐ 義母と同居している
- ☐ その他の家族・親族と同居している

□ 誰とも同居していない

46. 介護について伺います.

46.1 現在ご家族（同居以外を含む）に看護・介護の必要な人がいますか。あるいはこれまでにいましたか。＊

○ 現在いる

○ これまでにいた

○ いない

46.3 介護休業・介護休暇制度についてご存知ですか。＊

○ はい

○ いいえ

○ わからない

47. 仕事と育児,介護との両立に必要なことは何だと思いますか。(複数回答可)

□ 【意識改革】仕事中心の考え方を変える

□ 【意識改革】男女役割分担の意識を変える

□ 【意識改革】職場の雰囲気

□ 【意識改革】所属機関・上司の理解

□ 【意識改革】育児・介護サービス提供者との信頼関係

□ 【意識改革】配偶者の応分の分担

□ 【制度改革】労働時間の短縮

□ 【制度改革】業務サポート

□ 【制度改革】多様な休暇・休業制度

□ 【制度改革】休業中の代替要員

□ 【制度改革】休業中に自宅で 仕事を継続できる仕組み

□ 【制度改革】ワークシェアリング

□ 【制度改革】勤務時間の弾力化

□ 【制度改革】任期制度など雇用形態の改善

□ 【制度改革】多様な働き方(多様なキャリアパス)

□ 【経済支援】育児・介護への経済支援

□ 【経済支援】休業者の勤務先への公的補助

□ 【経済支援】遠距離介護への経済支援（介護手当や交通機関の割引など）

□ 【施設やサービスの改善】保育施設・サービスの拡充

□ 【施設やサービスの改善】病児保育

□ 【施設やサービスの改善】学童保育の拡充

□ 【施設やサービスの改善】介護施設・サービス（在宅を含む）の拡充

□ 【施設やサービスの改善】ファミリーサポートの拡充

□ わからない

□ その他（具体的に）

上記で選択した項目のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

« < 9 / 12 > »

1つめ：

【意識改革】仕事中心の考え方を変える ▼

2つめ：

【意識改革】仕事中心の考え方を変える ▼

3つめ：

【意識改革】仕事中心の考え方を変える ▼

« < 9 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

キャリア形成について伺います

48. あなたの将来像について伺います(定年等退職者は終職在職中の考えをお答え下さい)。将来どのような職にもっとも就きたいですか(将来も現職に就きたい場合は現状をお答えください)。(複数回答可)

- ▢ 大学等で教育・研究に従事
- ▢ 大学等で運営管理（学部長・本部付等）に参加
- ▢ 研究機関等で研究に従事
- ▢ その他教育職
- ▢ 民間企業等で研究以外の職
- ▢ 行政職
- ▢ わからない
- ▢ その他

49. ご自身の専門分野で、任期・契約期間のない職に就くために重視される業績や条件を３つまでお答えください。
もっとも重要な業績・条件：*

- ○ 著書（単著）
- ○ 著書（単著以外。編著・共著・分担執筆など）
- ○ 査読つき学術誌論文（日本語）
- ○ 査読つき学術誌論文（英語他）
- ○ 査読なし学術誌論文（日本語）
- ○ 査読なし学術誌論文（英語他）
- ○ 紀要論文
- ○ 博士号学位
- ○ 修士号学位
- ○ 国家資格
- ○ 国家資格以外の資格
- ○ 競技成績・芸術作品等
- ○ 大学での教育経験（非常勤講師を含む）
- ○ 大学以外での実務経験
- ○ 出身大学・研究科
- ○ 人柄
- ○ 大学運営へのコミットメント
- ○ 海外経験・語学力
- ○ その他

○ なし

2番目に重要な業績・条件：*

○ 著書（単著）
○ 著書（単著以外。編著・共著・分担執筆など）
○ 査読つき学術誌論文（日本語）
○ 査読つき学術誌論文（英語他）
○ 査読なし学術誌論文（日本語）
○ 査読なし学術誌論文（英語他）
○ 紀要論文
○ 博士号学位
○ 修士号学位
○ 国家資格
○ 国家資格以外の資格
○ 競技成績・芸術作品等
○ 大学での教育経験（非常勤講師を含む）
○ 大学以外での実務経験
○ 出身大学・研究科
○ 人柄
○ 大学運営へのコミットメント
○ 海外経験・語学力
○ その他
○ なし

3番目に重要重要な業績・条件：：*

○ 著書（単著）
○ 著書（単著以外。編著・共著・分担執筆など）
○ 査読つき学術誌論文（日本語）
○ 査読つき学術誌論文（英語他）
○ 査読なし学術誌論文（日本語）
○ 査読なし学術誌論文（英語他）
○ 紀要論文
○ 博士号学位
○ 修士号学位
○ 国家資格
○ 国家資格以外の資格
○ 競技成績・芸術作品等
○ 大学での教育経験（非常勤講師を含む）
○ 大学以外での実務経験
○ 出身大学・研究科
○ 人柄
○ 大学運営へのコミットメント

○ 海外経験・語学力
○ その他
○ なし

« < 10 / 12 > »

50. ご自身の専門分野で、若手が研究者として伸びていくために重要だと思う研究支援はどれですか。（複数回答可）

☐ 査読論文の書き方の指導
☐ 英語論文の書き方の指導
☐ 就職をするための条件とそれをクリアするための指導
☐ 研究会や研究チームへの参加
☐ 子育てをしながら研究をするロールモデルの提示
☐ ネットワーキング
☐ 研究資金の取り方の指導
☐ 海外での研究機会
☐ 若手奨学金
☐ 生活資金援助
☐ 配偶者からのサポート
☐ 子育て支援
☐ 世間の理解
☐ 安定した雇用機会の拡充
☐ その他

上記で選択した研究支援のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

1つめ：

査読論文の書き方の指導 ▼

2つめ：

査読論文の書き方の指導 ▼

3つめ：

査読論文の書き方の指導 ▼

51. 特にあなたの研究分野で欠けていると思うものはどれですか。下記選択肢の中から３つまでお答えください。

1つめ：*

○ 査読論文の書き方の指導
○ 英語論文の書き方の指導
○ 就職をするための条件とそれをクリアするための指導
○ 研究会や研究チームへの参加
○ 子育てをしながら研究をするロールモデルの提示
○ ネットワーキング

- ○ 研究資金の取り方の指導
- ○ 海外での研究機会
- ○ 若手奨学金
- ○ 生活資金援助
- ○ 配偶者からのサポート
- ○ 子育て支援
- ○ 世間の理解
- ○ 安定した雇用機会の拡充
- ○ その他
- ○ なし

2つめ：*

- ○ 査読論文の書き方の指導
- ○ 英語論文の書き方の指導
- ○ 就職をするための条件とそれをクリアするための指導
- ○ 研究会や研究チームへの参加
- ○ 子育てをしながら研究をするロールモデルの提示
- ○ ネットワーキング
- ○ 研究資金の取り方の指導
- ○ 海外での研究機会
- ○ 若手奨学金
- ○ 生活資金援助
- ○ 配偶者からのサポート
- ○ 子育て支援
- ○ 世間の理解
- ○ 安定した雇用機会の拡充
- ○ その他
- ○ なし

3つめ：*

- ○ 査読論文の書き方の指導
- ○ 英語論文の書き方の指導
- ○ 就職をするための条件とそれをクリアするための指導
- ○ 研究会や研究チームへの参加
- ○ 子育てをしながら研究をするロールモデルの提示
- ○ ネットワーキング
- ○ 研究資金の取り方の指導
- ○ 海外での研究機会
- ○ 若手奨学金
- ○ 生活資金援助
- ○ 配偶者からのサポート
- ○ 子育て支援

○ 世間の理解
○ 安定した雇用機会の拡充
○ その他
○ なし

52. あなたはこれまで、指導教員や勤務先の意向により研究テーマを変更しなければならなかった経験がありますか。 *

○ ない
○ ある

« < 10 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

研究職における男女共同参画について伺います

53. 次の質問にお答えください。

53.1 研究活動において女性（男性）ということで不利と感じたことはありますか。(複数回答可)

- ☐ 多数をしめる男性（女性）のネットワークに入れなかった
- ☐ 指導教員の指導を受けにくかった
- ☐ 指導教員が男性（女性）の就職により力をいれていた
- ☐ 研究会に声をかけてもらえなかった
- ☐ アカデミック・ハラスメントがあった
- ☐ セクシャル・ハラスメントがあった
- ☐ モラル・ハラスメント（ここでは部下や学生からのハラスメントを意味するものとします）があった
- ☐ ロールモデルがいなかった
- ☐ その他
- ☐ 特にない

53.2 研究活動において子どもがいるということで不利と感じたことはありますか。(複数回答可)

- ☐ 子どもはいない
- ☐ 多数をしめる男性（女性）のネットワークに入れなかった
- ☐ 指導教員の指導を受けにくかった
- ☐ 指導教員が男性（女性）の就職により力をいれていた
- ☐ 夜の研究会に出られなかった
- ☐ 研究時間がとれなかった
- ☐ インフォーマルなネットワークに参加する時間がとれなかった
- ☐ ハラスメントがあった
- ☐ ロールモデルがいなかった
- ☐ 学会出張・海外出張にいきにくい
- ☐ その他
- ☐ 特にない

53.3 研究職において一般に女性比率が低いのはなぜだと思いますか。(複数回答可)

- ☐ 教育環境
- ☐ 家庭環境
- ☐ 職場環境
- ☐ 社会の偏見

- ☐ 男女の社会的分業
- ☐ ロールモデルが少ない
- ☐ 男性に比べて採用が少ない
- ☐ 採用時の業績評価において育児・介護等に対する配慮がない
- ☐ 評価者に男性を優先する意識がある
- ☐ 男女の能力の差
- ☐ 男女の適性の差
- ☐ 男性の比率が高い
- ☐ 研究職に就く女性のイメージがわかない
- ☐ 研究職のイメージがよくない
- ☐ 将来像が不透明
- ☐ 給料が少ない
- ☐ 労働時間が長い
- ☐ 役職につきにくい
- ☐ 家庭(家事・育児・介護)と仕事の両立が困難
- ☐ 育児・介護期間後の復帰が困難
- ☐ 学生時代の情報不足
- ☐ その他

上記で選択した項目のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

1つめ：

教育環境 ▼

2つめ：

教育環境 ▼

3つめ：

教育環境 ▼

53.4 研究職において指導的地位になるほど女性比率が低いのはなぜだと思いますか。(複数回答可)

- ☐ 家庭との両立が困難
- ☐ 女性に中途離職や休職が多い
- ☐ 女性は男性より昇進を望まない
- ☐ ロール モデルが少ない
- ☐ 採用・昇進時の業績評価において育児・介護等に対する配慮がない
- ☐ 評価者に男性を優先する意識がある
- ☐ 男女に能力・適性の差がある
- ☐ 女性の業績が不十分
- ☐ 指導的地位として女性が望まれない
- ☐ 現在指導的地位にある世代の女性比率が低い

☐ 女性が男性コミュニティから疎外されている

☐ 女性のネットワーク不足から情報を十分に得られない

☐ その他

上記で選択した項目のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

1つめ：

家庭との両立が困難 ▼

2つめ：

家庭との両立が困難 ▼

3つめ：

家庭との両立が困難 ▼

53.5 研究職において女性比率が低い現状を改善するには、下記のうちどの措置を行うべきと思いますか。(複数回答可)

☐ 女性の優先採用

☐ 役職・管理職等への登用

☐ 昇進・昇給の促進

☐ 研究費の増加

☐ 研究補助者の配置

☐ 共同研究への参加促進

☐ 国内外留学の機会提供

☐ 学会におけるシンポジスト・議長・オーガナイザー等の機会増加

☐ 女性に限定した賞の設立など受賞の機会増加

☐ 女性研究者ネットワークの形成

☐ 業績評価におけるライフイベント等の考慮

☐ 研究・本業以外の業務負担軽減

☐ リーダー養成研修等の機会提供

☐ 学生・院生への情報提供

☐ ハラスメント防止対策

☐ 女性大学院生向けの経済的支援

☐ その他

上記で選択した措置のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。

1つめ：

女性の優先採用 ▼

2つめ：

▼

« < 11 / 12 > »

3つめ：

女性の優先採用 ▼

54. 出産・育児に関して現在進められている研究者支援策について伺います。該当する箇所にチェックを入れてください。
(1)出産・育児からの復帰支援事業(日本学術振興会特別研究員RPD制度)(平成 18 年度～)*

○ 有意義である
○ 有意義かどうかわからない
○ 有意義だとは思わない
○ 制度を知らない

(2)ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（旧女性研究者研究活動支援事業(平成 23 年度～) *

○ 有意義である
○ 有意義かどうかわからない
⦿ 有意義だとは思わない
○ 制度を知らない

(3)科学研究費補助金における出産・育児に配慮した措置(年複数回応募・年齢制限の緩和等)*

○ 有意義である
○ 有意義かどうかわからない
○ 有意義だとは思わない
○ 制度を知らない

55. 政府の「科学技術」の定義の中には人文社会科学が含まれていなかったことをご存知でしたか。*

○ 知っていた
○ 知らなかった

56. ここ数年の範囲で男女共同参画が促進されたと感じていますか。
56.1 所属する組織・機関において：*

○ 少しずつ進んでいる
○ ほとんど変わらない
○ 後退している
○ わからない
○ 組織・機関に所属していない

56.2 所属する学会において：*

○ 少しずつ進んでいる
○ ほとんど変わらない
○ 後退している
○ わからない

56.3 世の中全体として： *

- ◉ 少しずつ進んでいる
- ○ ほとんど変わらない
- ○ 後退している
- ○ わからない

56.4 ご自身の近辺で女性研究者の増加および昇進等処遇改善の実感はありますか。 *

- ◉ 少しずつ進んでいる
- ○ ほとんど変わらない
- ○ 後退している
- ○ わからない

57. 男女共同参画社会の推進のために今後必要と思われることをお答えください。(複数回答可)

- ☐ 女性の意識改革
- ☐ 男性の意識改革
- ☐ 女性が決定権のある地位につくこと
- ☐ 男性の家事・育児への参加促進
- ☐ 選択的夫婦別姓
- ☐ 職場の施設等整備
- ☐ 職場のハラスメント(セクハラ・アカハラ等)防止対策
- ☐ 一定期間の女性優先措置
- ☐ 各種年齢制限の撤廃
- ☐ 評価システムの改善
- ☐ 所属機関・上司の理解の促進
- ☐ 多様な勤務体系の拡充
- ☐ 育児・介護支援策等の拡充
- ☐ 任期制導入
- ☐ 任期制の改善
- ☐ 任期制撤廃
- ☐ 国際標準をめざした比較調査と政策への反映
- ☐ 国の方針の明確化
- ☐ 施策などの資金援助
- ☐ 国・自治体や雇用者による推進体制の拡充
- ☐ 社会保障制度の拡充
- ☐ その他
- ☐ 特に必要ない

上記で選択し項目のうち、特に重要なものを3つまで選択して下さい。
1つめ：

女性の意識改革 ▼

2つめ：

女性の意識改革 ▼

3つめ：

女性の意識改革 ▼

58. 人文社会科学分野における男女共同参画に関するご意見がありましたら、100 字以内で自由にご記述ください。

« < 11 / 12 > »

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.

人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）

以上で設問は終わりです。ご協力いただき誠にありがとうございました。以下の「送信」ボタンを押して下さい。うまく送信できない時は、赤い文字で表示された質問を見つけてご回答下さい。

« < 12 / 12 > »

送信

連絡先：geahss.office@gmail.com
Copyright (C) Tokyo University All Rights Reserved.